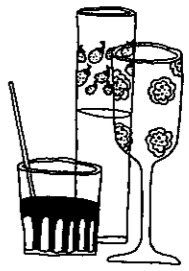


市民談話室



投稿ください。みなさんの意見交換の場がこの市民談話室です。いくつかあげた来月のテーマの中から一つ選んで、あなたの意見をお気軽にお寄せください。また新しいテーマを提案していただいても結構です。薄謝をさしあげます。ページの都合で、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一三三五 白根市役所企画財政課広報広聴係。来月分の締め切りは、四月十六日です。お早目に郵便ポストへ。

来月以降のテーマ

私のふるさと自慢

あなたの思い出深い、自慢のふるさとをご紹介ください。ふるさと白根でも、もっと身近かな地域にしばりでも、あるいは転入された市外での思い出を語ってもらって結構です。大いにふるさと自慢をしようではありませんか。

私と大風合戦

あなたにとって大風合戦とはいったい何でしょう。人それぞれにいろいろな考え方があることでしょう。大風合戦にまつわる思い出や、大風合戦にまつわらぬ思い出、大風合戦にまつわるものでは……といった意見をお寄せください。

自転車のマナー

簡単に乗れる自転車は、ひとつましがえれば命をおとす危険さえ秘めています。あいかからず悪い交通マナーを、何度か目撃して冷汗が……。何か良い方法は無いものでしょうか。

成人に望む

次代をになう青年たち。青年のもつ「若さの特権」を、大いに発揮してもらいたいものです。五月三日に成人式を迎える青年たちに贈ることを、お寄せください。

国際障害者年に思う

一九八一年は国際障害者年。心身に障害をもつ人に対する理解と関心を深め、みんなが参加し、みんなが平等に暮らせるより良い社会づくりをしようとする年——「国際障害者年」にあたって、みんなで考えましよう。

私の意見

国際障害者年に思う

相互扶助の精神で助け励まし合おう

野内アイさん
(砂押・主婦・56歳)

国際障害者年とは何かと問われても、簡単には答えができません。私たちは、日常気にもとめずに過ごしていますが、全国には何十万の重度心身障害者がおられることでしょう。市内にもおられます。

障害をもつ人は、とかく自然に心がもろがちで、精神的に苦痛が多いものと思われれます。いま、文化的に進歩した世の中に、健康な人も容易でない時代なのに、障害者は一層厳しい試練に立ち向かっていかなくてはなりません。同じ星のもとに生まれながら

も、障害に苦しんでいる人でも障害にめげず根性をもって、生きることになんばってほしいと思っています。

私たちは、この国際障害者年を契機として、相互扶助の精神をもって、心から障害者を助け励まし合おう、同じ太陽の光を受けられるよう、幸せな社会づくりに努力しようではありませんか。

温かい思いやりと平等社会の建設を

川田キン子さん
(茨賀根・主婦・44歳)

先日、サリドマイド児の吉森こずえさんのテレビ放映を涙流して見ました。障害者の強く生きる力に、感動しての涙だったのです。障害者の環境や雇用制度など、さまざまな問題が残されていると思われれます。一番大切なことは、国民すべてが障害者を偏見の目で見ることなく、温かい思いやりをもって

接することが大切だと思います。これが、障害者にとって一番の心の支えとなることでしょう。人間は全て平等です。障害者のみなさんも、卑屈になることなく、強いプライドをもってほしいものです。みんなの手を取り合って、より良い社会を築いていくことを、願わずにはいられません。

共に生活することの重要さを痛感しています。また、みずほ園のみなさんは、地元の広報紙や、盲学校の児童向け図書の見聞にがんばっています。その姿を見ると、ボランティアとは、お金の有無、仕事の有無、障害の有無を越えて他人のことを思いやる温かい心にはじまる、助け合いの精神そのものだと思えます。障害をもつて自ら、障害者のために奉仕活動を続けているのです。

みずほ園で知った温かい奉仕の精神

夏川久美子さん
(桜町・家庭奉仕員・32歳)

私は点訳の勉強を続けています。私が、障害者を理解するきっかけを得たのは、新潟みずほ園へ点字の指導、というよりいっしょに勉強するために通いはじめ、直接障害者とふれあう時間をもったことでした。

共通の目的に向って、お互いに努力する中で、ハンデいの重さと、それに耐えて頑張っている姿に接して、人間としての信頼と尊敬が、ごく自然に培われました。ですから、共に学び、

成人に望む

若さは宝。最後までで焼やし続けよう

黒部里海さん
(七軒家庭児童相談員・61歳)

若さは宝。思う存分、二度とこない青春を悔いのないものにしたいものです。教え子の同級会に招待されるたびに、いつも口にする私の信条めいたものを紹介し、成人を迎える諸君への

はなむけをしたいと思います。充実感あふれる人生を、自分は社会の中で価値ある者であると感じ、その役割分担について誇りと責任をもつことができれば幸いです。質高く、量多い毎日の実践活動こそ、喜びと生きがいが生まれるものと信じます。

「奉仕の精神をもとう」最近、若者を中心とするボランティア活動が活発に行われていますが、これも自然発生的に奉仕することのできる人こそ、尊いものです。

「健全な身体には健全な精神がやどる」ありふれたことばではありますが、自分に合ったスポーツ、しかも長く四十、五十歳になっても続けていけるような運動技能をもつことこそ、長い人生において大切なことではないでしょうか。

以上の三点について、青春を悔いのないものにするために、最後まで燃やし続けてみませんか。

多数の投稿ありがとうございました。今日号に掲載できなかった投稿は、次号に掲載させていただきます。ご了承ください。

私たちの話題

最後の「定時制の灯」消える

白根高校定時制が閉課程

市内で最後の「定時制の灯」が、静かに消えていきました。白根高校定時制の閉課程記念式典が、三月八日、同校体育館で行われ、十八年の歴史に幕を閉じました。開校以来の卒業生は、今春果立った八人を含め五百三十四人。この日は旧職員、同窓生ら約五百五十人が出席し、懐かしい思い出を語り合っていました。また、同校正面玄関前に「友よ学舎なきあとの灯をいつまでも」との願いをこめて建立された、記念柱の除幕も行われました。この記念柱は、十八回の卒業生を送り出したことを記念し、十八段に刻まれています。

1,100人が技を競う

県下柔剣道大会



県下柔剣道大会が、三月二十一日、白根高校を会場に開かれました。今回で二十六回を迎えるこの大会、年々レベルアップをするほか、出場者が多くなってきました。今年は県内各地から、剣道に百三十九チーム・七百三十人、柔道に五十四チーム・四百人が出場し、各ブロック別に日ごろきたえた技を競い合っていました。柔道、剣道ともに白根勢の大活躍が目につきました。

よりよい白根市をつくるには

議員とお年寄りの学習会

白根市の未来を考えると題して、市議会議員とお年寄りの学習会が二月二十六日、老人福祉センターで開かれました。市議会側から川田議長をはじめ四議員、お年寄りは白寿大学生百三十人が出席しました。はじめは緊張していたお年寄りも、しだいに話がはげぐれ、自由に意見を申し合いました。約二時間と少ない時間の中で、市の財政問題、老人福祉問題、公共施設の跡地利用など、活発な意見交換が行われました。



市民総ぐるみの非行防止運動を

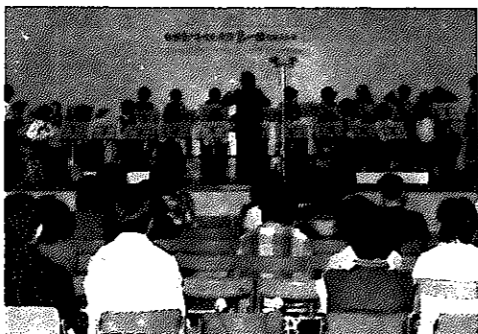
青少年健全育成市民会議



市民総ぐるみで青少年の健全育成を図ろうと、三月五日、青年教育センターで市民約百五十人が集まり、青少年健全育成市民会議を開きました。この市民会議で、「青少年の社会参加や、自動車旅行ホテルなどの青少年健全育成に好ましくない施設の建設に反対し、住民と一体となって社会環境を浄化し、青少年の非行を防止する」など四項目の大会宣言を採択しました。

オリジナル曲も披露

青少年吹奏楽団が初コンサート



市内で初めての市民バンド、白根青少年吹奏楽団の第一回定期コンサートが、三月二十二日、青年教育センターで開かれました。この日のために、猛練習を積んできた成果を発表。「錨をあげて」「フランドール」など十曲を演奏しました。同楽団の指揮者、片野稔さん作曲の「風に向かって」「アラビアンマーチ」も披露し、さかんな拍手を浴びました。同楽団のすばらしい演奏に、約百人の観客はみんなウットリ聴き入っていました。

